

30年3月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 3月1日～ 30年3月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は10社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 6.3	△ 18.8	△ 12.5
	マツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	0.0	△ 5.0	△ 15.0
消費動向	スギ・ヒノキ	28.6	16.7	16.7
	マツ	△ 6.3	0.0	0.0
	広葉樹	△ 5.6	△ 11.1	△ 11.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 18.8	△ 25.0
	マツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 5.0	△ 5.0	△ 10.0

・スギ・ヒノキ、マツ原木の入荷動向は3カ月連続減少。広葉樹は3月の横ばいから5月、6月は減少に。
・スギ・ヒノキの消費動向は3カ月連続増加。マツは3月の減少から4月、5月は横ばいに。広葉樹は3月連続減少。
・スギ・ヒノキの在庫動向は3月の横ばいから4月、5月は減少に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/3月	4月	5月
スギ・ヒノキ	6.3	0.0	0.0
マツ類	5.6	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・チップ用原木の購入価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・木質バイオマス発電工場の関係か、スギの入荷が少ない（東北）。
・システム販売の終了により、スギ・ヒノキ、マツの入荷量が減少。広葉樹は、天候の回復により入荷量が増加する見込み。在庫はスギ4.5→5.5カ月、マツ2.0→2.0カ月、広葉樹0.5→1.5カ月（東北）。
・針葉樹材の確保が難しい状態が続いている。広葉樹材は、メガソーラーの関係で雑木林を伐採したので、まずまずやっている。在庫は針葉樹1カ月分しかない（関東）。
・冬場で回収できなかったパルプ材の入荷があった。製紙会社の使用が引き続き好調に推移している。入荷は不調で出荷が好調なため在庫は減少（中部）。
・仕入、消費、在庫とも変動なし（中国）。
・雪の影響も少なくなり、原木入荷は増えたきた。翌月、翌々月も横ばい見通し。仕入原木入荷やや増加に通しにて、当月消費もやや増加見通し。翌月、翌々月横ばい（四国）。
・仕入は、例年の天候であれば梅雨までは順調に出材されると予想する。消費は、全樹種ともにより多くに出荷要請があり、製紙用の広葉樹とスギ、ヒノキの原木が入手しづらくなっており、注文に応えられない状況。在庫は、発電用の原木は昨年度末からみて入荷多くなると見込まれる。製紙用は入荷した分消費するため在庫の変動は変わらないと予想。
・3月も取引素材業者からの広葉樹原木の仕入は少ない。消費は少ない状態で横ばい。広葉樹原木の確保が難しく在庫は少ない。スギ・ヒノキ、マツ原木の仕入、消費、在庫は基本的になし（九州）。

(原木価格)

・特に変更なし（東北）。
・全樹種とも変化なし（中部）。
・2月から広葉樹の購入価格が少々アップ（中国）。
・全樹種とも変化ない（四国）。
・広葉樹横ばいで推移（九州）。

30年3月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/3月	4月	5月
生産動向	スギ・ヒノキ	16.7	0.0	0.0
	マツ類	△ 21.4	△ 14.3	△ 14.3
	広葉樹	△ 6.3	△ 12.5	△ 12.5
出荷動向	スギ・ヒノキ	7.1	0.0	0.0
	マツ類	△ 18.8	△ 12.5	△ 12.5
	広葉樹	0.0	△ 5.6	△ 5.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 25.0	△ 25.0
	マツ類	△ 35.7	△ 35.7	△ 35.7
	広葉樹	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5

・スギ・ヒノキチップの生産動向は3月の増加から4月、5月は横ばいに。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの出荷動向は3月の増加から4月、5月は横ばいに。マツ類は3カ月連続減少。広葉樹は3月の横ばいから4月、5月は減少に。

・在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/3月	4月	5月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続横ばい推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ類、マツ類とも横ばい。広葉樹は入荷量増加にともない出荷量は微増（東北）。
- ・製紙会社より針葉樹、広葉樹チップとも増産要請があるが、今後特に針葉樹チップは対応が厳しくなる（関東）。
- ・製紙会社の使用量増加により、生産は高い状態を継続している。出荷も生産同様の理由により継続している。入荷が低調であり出荷が好調に推移しているため在庫は減少（中部）。
- ・生産、出荷、在庫動向とも変動なし（中国）。
- ・仕入やや増加にて、当月は製紙、ボード、燃料ともやや増加生産。当月製紙用、ボード類用、燃料用仕入やや増加にて、出荷もやや増加の見通し。翌月、翌々月は横ばい見通し。在庫は当月やや増加見通し。翌月、翌々月は横ばい見通し（四国）。
- ・広葉樹横ばいで推移（九州）。

(木材チップ価格)

- ・全樹種とも変化なし（中部）。
- ・広葉樹横ばい推移（九州）。